



### Monthly Report

### ～住友信託の経済・市場情報～

#### Contents

#### ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
- ✓ 投資環境(国内)
- ✓ 投資環境(海外)
- ✓ 投資環境(為替)
- ✓ 主要ベンチマークの推移

#### ● 見通し

- ✓ 内外経済
- ✓ 国内資産・海外資産・為替

#### ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・アジアのGDP成長率
- ✓ 今月のトピックス



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行



---

## ● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
  - ✓ 投資環境(国内)
  - ✓ 投資環境(海外)
  - ✓ 投資環境(為替)
  - ✓ 主要ベンチマークの推移
-

# 経済・市場振り返り ~5月の主な経済指標・ニュース(国内)~

月日	国内
5月1日	3月の消費者物価指数(全国、生鮮食品除く)は前年同月比0.1%低下。1年半ぶりに下落。
5月7日	4月のマネタリーベースは前年同月比8.2%増加。
5月12日	3月の景気動向指数によると、先行指数は76.6と前月比2.1ポイント上昇。一致指数は84.9と前月比0.3ポイント低下。
5月13日	4月の景気ウォッチャー調査によると、現状判断指数は前月比5.8ポイント高い34.2となり、4ヶ月連続で改善。先行き判断指数は3.9ポイント高い39.7と4ヶ月連続で上昇。
5月15日	4月の国内企業物価指数は前年同月比3.8%下落。下落率は1987年6月以来、21年10ヶ月ぶりの大きさ。 1-3月期の機械受注統計によると、「船舶・電力を除く民需」は前期比9.9%減。昨年4-6月期以降、4四半期連続で減少。
5月18日	4月の全国百貨店売上高は前年同月比11.3%減。2ケタの売上減は3ヶ月連続。
5月20日	1-3月期の実質GDP速報値は前期比年率15.2%減。2四半期連続で戦後最悪の落ち込みを記録。
5月25日	日銀は、景気の総括判断を「悪化が続いているが、輸出や生産は下げ止まりつつある」とし、4月の「大幅に悪化している」から上方修正。上方修正は2年10ヶ月ぶり。
5月27日	4月の貿易統計速報によると、貿易収支は690億円と黒字を確保。
5月29日	4月の完全失業率は5.0%と前月比0.2ポイント上昇。5%台となるのは約5年半ぶり。 4月の全国消費者物価指数は前年同月比0.1%下落。2ヶ月連続のマイナス。 4月の新設住宅着工件数は前年同月比-32.4%。前年同月を下回るのは5ヶ月連続。 4月の鉱工業生産指数は前月比5.2%上昇。1953年3月以来、約56年ぶりの上昇率。

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ~5月の主な経済指標・ニュース(海外)~

月日	海外
5月1日	4月のISM製造業景気指数は40.1と、前月の36.3から改善。
	4月のミシガン大学消費者信頼感指数(確報値)は65.1と前月の61.9から改善。
5月4日	3月の中古住宅販売仮契約指数は前月比3.2%上昇。
5月5日	4月のISM非製造業景気指数は43.7と、前月の40.8から上昇。
5月8日	4月の雇用統計は、非農業部門雇用者数は前月比53.9万人減。失業率は前月比0.4ポイント高い18.9%。1983年9月(9.2%)以来、25年7ヶ月ぶりの水準に悪化。
5月13日	4月の米小売売上高は前月比0.4%減。減少は2ヶ月連続。
	4月の米輸入物価指数は前月比1.6%上昇。原油価格が大幅な上昇となったことが背景。
5月14日	4月の米生産者物価指数は前月比0.3%上昇。
5月15日	4月の消費者物価指数は前月比横ばい。コアは0.3%上昇。
	4月の米鉱工業生産は前月比0.5%減。6ヶ月連続の落ち込み。
	5月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)は67.9と4月の65.1から上昇。景気後退が最終局面に入っている可能性を示した。
5月19日	5月の米住宅着工件数は45.8万戸と前月比12.8%減少。2ヶ月連続のマイナス。
5月21日	S&Pが英国債の長期信用格付けの中期的な見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げ。
	5月のフィラデルフィア連銀景気指数は-22.6と前月の-24.4からマイナス幅が縮小。
5月26日	北朝鮮が短距離ミサイルを発射。地政学リスクが高まる。
	5月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は54.9と前月40.8から改善。
5月27日	4月の中古住宅販売件数は468万戸と前月比2.9%増。
5月28日	4月の耐久財受注統計では、新規受注が前月比1.9%増。2007年12月以来1年4ヶ月ぶりの大幅な伸び。
	4月の新築住宅販売は年率換算35.2万戸と前月比0.3%増。2ヶ月ぶりに微増に転じた。
5月29日	1-3月の米実質GDP成長率は前期比年率-5.7%。個人消費が下方修正。
	5月のミシガン大学消費者信頼感指数(確報値)は68.7と8ヶ月ぶりの水準に上昇。深刻な景気低迷からの回復の兆候。

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ~投資環境(国内)~

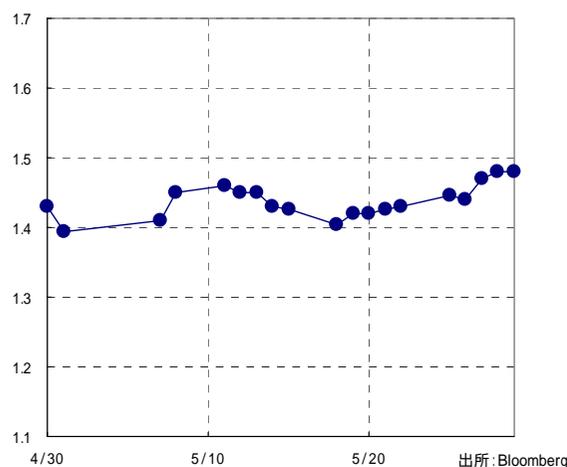
市場インデックスの推移	09/03月	09/04月	09/05月	前月比	前年度末比
NOMURA-BPI総合	316.24	315.82	315.32	- 0.16%	- 0.29%
新発10年国債利回り(%)	1.34	1.43	1.48	-	-
日興CBインデックス(総合)	538.78	552.73	576.18	+ 4.24%	+ 6.94%
東証株価指数(配当込み)	945.72	1,024.13	1,097.69	+ 7.18%	+ 16.07%
日経平均株価	8,109.53	8,828.26	9,522.50	+ 7.86%	+ 17.42%

## 国内債券

5月の国内長期金利は1.4%台のボックス圏で推移しました。上旬は、大型連休後、米国長期金利の上昇を受けて、国内長期金利も上昇しました。中旬は、円高の進行や新型インフルエンザの急拡大等が景気に悪影響を及ぼすという見方から、長期金利は緩やかな低下基調で推移しました。下旬は、米国長期金利の急上昇や4月の貿易統計で輸出の減少幅が予想を下回るなど外需の回復期待が強まり、景気見通しにも改善が見られたことから、長期金利は緩やかに上昇しました。

結局、国内長期金利は1.48%(前月比+0.05%)で月末を迎えました。

(%) 国内債券(新発10年国債利回り)

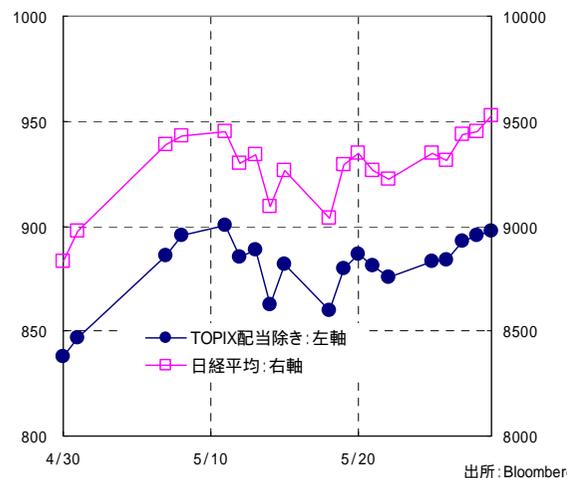


## 国内株式

5月の国内株式市場は3ヶ月連続の上昇となりました。上旬は、米景気指標の改善を受けた内外景気の底入れ期待や米国金融機関に対するストレステストの結果を受けた金融不安の後退を背景に、堅調に推移しました。中旬は、円高進行による企業収益圧迫懸念、株式市場の上昇を背景とした高値警戒感などから反落した後は、国内外の経済指標が好悪入り混じる内容となり一進一退の推移となりました。また新型インフルエンザの感染拡大も相場の重石となりました。下旬は、5月の月例経済報告で景気判断が上方修正されたことなどを受けて景気底入れ期待が高まったことから堅調に推移しました。

結局、TOPIXは897.91(前月比+7.18%)、日経平均株価は8,952.50円(同+7.866%)で月末を迎えました。

(ポイント) 国内株式(TOPIX 配当除き・日経平均) (円)



## Multi-Product & Investment Counseling

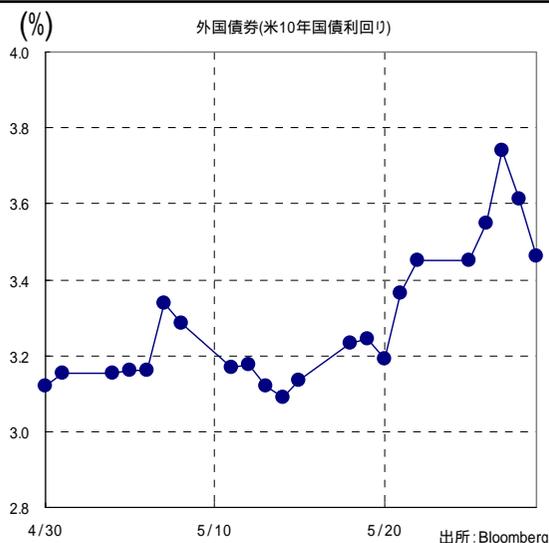
本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 経済・市場振り返り ~投資環境(海外)~

市場インデックスの推移	09/03月	09/04月	09/05月	前月比	前年度末比
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	313.82	312.61	314.09	+ 0.47%	+ 0.09%
米国10年国債利回り(%)	2.67	3.12	3.46	-	-
MSCI世界株式インデックス(円ベース)	804.54	893.82	945.66	+ 5.80%	+ 17.54%
ニューヨークダウ(工業株30種)	7,608.92	8,168.12	8,500.33	+ 4.07%	+ 11.72%
ナスダック総合指数	1,528.59	1,717.30	1,774.33	+ 3.32%	+ 16.08%

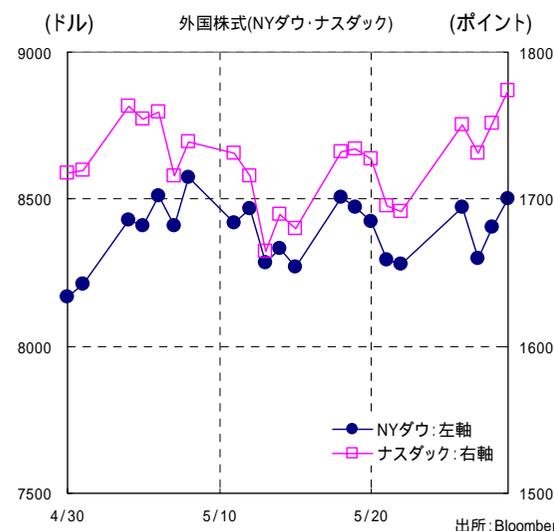
## 米国債券

5月の米国長期金利は上旬から中旬にかけてボックス圏で推移しましたが、下旬に急上昇しました。上旬は、4月の非農業部門雇用者数が市場予想を上回ったことや30年物債入札が不調に終わったこと等の需給悪化から、長期金利は上昇しました。中旬には、消費関連の経済指標の悪化やFRBの経済見通しの下方修正から、長期金利は低下しました。下旬は、米国債の格下げ懸念、5月の消費者信頼感指数や中古住宅販売が市場予想を上回ったことから、長期金利は3.2%台(5/20)から3.7%台(5/27)まで急上昇しました。月末には、1~3月のGDP統計で個人消費が下方修正されたこと等を受けて、長期金利は低下に転じましたが、結局、米国長期金利は3.46%(前月比+0.34%)で月末を迎えました。



## 米国株式

5月の米国株式市場は3ヶ月連続の上昇となりました。上旬は、マクロ指標の改善を受けた景気底入れ期待や金融機関に対するストレステストの結果を受けた金融不安の後退を背景に堅調に推移しました。中旬は、高値警戒感が高まるなか、金融機関の増資計画に対する希薄化懸念や、マクロ指標が市場予想を下回ったことが嫌気された一方、ホームセンター大手の好決算を受けて景気底入れ期待が高まるなど一進一退の推移となりました。下旬は、長期金利の上昇が嫌気されて下落した局面もあったものの、消費者信頼感指数等のマクロ指標の改善や商品相場の上昇が好感され、堅調に推移しました。結局、NYダウは、8,500.33ドル(前月比+4.07%)、ナスダックは1,774.33(同+3.32%)で月末を迎えました。



## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

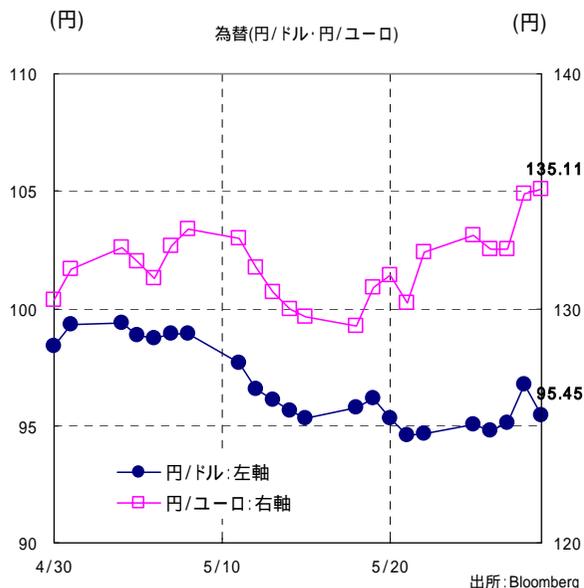
# 経済・市場振り返り ~ 投資環境(為替) ~

市場インデックスの推移	09/03月	09/04月	09/05月	前月比	前年度末比
円/ドル相場(ロンドン16時)	98.77	98.39	95.45	- 2.98%	- 3.36%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	131.14	130.37	135.11	+ 3.64%	+ 3.03%

## 為替

5月の円/ドル相場は99円台半ばで始まり、概ね円高基調で推移しました。上旬は、98円後半のボックス圏で推移しましたが、中旬に米国で弱い経済指標が公表されると、景気の先行不透明感が意識され、ドル安が進行しました。下旬は、米国債の格下げ懸念が円高圧力となり、一時3/19以来の93円台まで円高が進行しましたが、5月の消費関連の経済指標改善がドルを支え、一進一退で推移しました。結局、円/ドル相場は95.45円(前月比-2.93円)で月末を迎えました。

円/ユーロ相場は131円台半ばで始まり、株式相場の動向に左右されて推移しました。中旬には、ドイツの1-3月期GDPが市場予想を下回ったこと等を受けて、ユーロ安が進行する場面もありました。結局、円/ユーロ相場は135.11円(前月比+4.74円)で月末を迎えました。



## Note

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

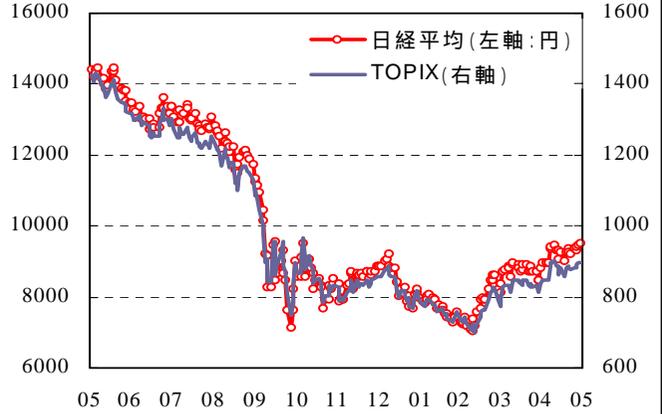
## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

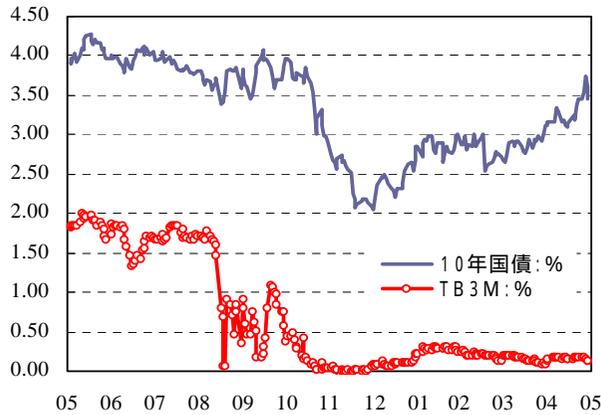
### 国内債券市場の推移



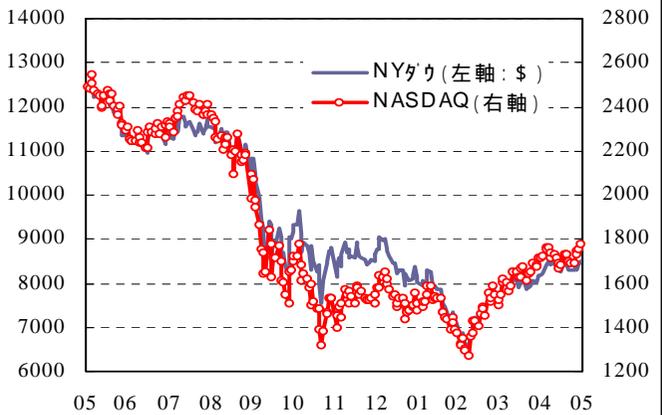
### 国内株式市場の推移



### 米国債券市場の推移



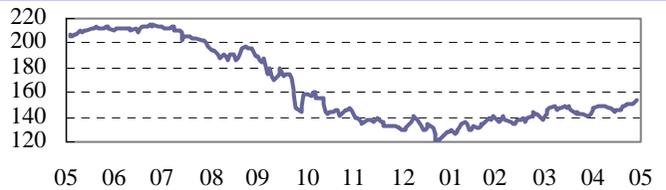
### 米国株式市場の推移



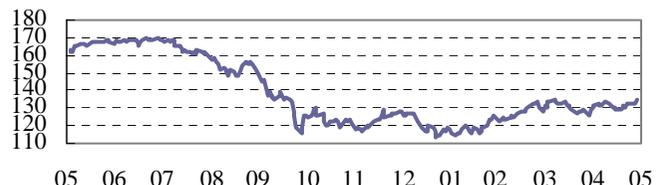
### 円/ドル相場の推移(単位:円)



### 円/ポンド相場(単位:円)



### 円/ユーロ相場(単位:円)



出所: Bloomberg

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



---

## ● 見通し

- ✓内外経済
  - ✓国内資産・海外資産・為替
-

## 国内景気

< 企業部門 > 輸出の下げ止まりや在庫調整の進展に伴って減産が緩和されている中、企業マインドに改善が見られることはプラス材料です。しかし、本格的な需要回復までには時間がかかるため、設備投資の減少局面は続くものと予想します。

< 家計部門 > 政策効果や市場の安定等から、マインドは反発するものと予想します。一方、雇用・所得環境の悪化は継続すると想定しているため、消費支出の力強い動きは見込めず、横ばいの動きも予想します。

## 金融・財政政策

日銀は金融及び信用緩和政策を継続すると予想します。景気や物価への懸念や長期金利の過度な上昇などの市場混乱が生じる場合、国債買い入れ増額などを実施すると予想します。

## 米国景気

< 企業部門 > 在庫調整の進展や外需の下げ止まりからマインドの改善傾向は続くものと予想します。しかし、先行き景気や企業業績に不透明感が残ることから、積極的な設備投資スタンスへの転換には当面至らないと予想します。

< 家計部門 > 減税効果や株価の安定などから、マインドに改善が見られるなど消費の落ち込みスピードは鈍化すると見えています。しかし、住宅調整の継続と雇用環境の悪化を勘案すると、引き続き景気回復の牽引役とはならず、弱めの動きを想定します。

## 金融・財政政策

FRBはこれまでの政策効果を見極めながら、景気や金融市場動向を注視した運営を継続すると予想します。買取資産の規模や種類の拡大により、政策を遂行すると想定します。

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

# 国内資産・海外資産・為替

## 国内債券

経済対策に伴う国債増発の懸念や景気の落ち込みスピードの鈍化により、金利は上昇すると想定します。しかし、国内景気水準(需給ギャップ)に伴うインフレ率の低下が金利低下圧力として根強く残るため、引き続きレンジの中での動きを予想します。

[2010年3月末予想値 新発10年国債 1.0-1.8%]

## 国内株式

景気の落ち込みスピードの緩和を想定します。一方、今後は景気持ち直しの強さが焦点になると予想するため、国内景気の悪化や企業業績に対する慎重な見方などが上値を抑制する局面も想定します。総じてレンジの中で推移すると予想します。

[2010年3月末予想値 TOPIX 700-1,050]

## 米国債券

景気最悪期からの脱却見通しに伴うリスク許容度の改善、財政出動に伴う需給悪化懸念から金利上昇圧力が強まる局面を想定します。一方、景気の悪化やインフレ率の低下、国債買入れなどの政策は金利低下圧力となるため、徐々にみ合いに移行すると予想します。

[2010年3月末予想値 米10年国債 2.40-3.40%]

## 米国株式

景気底入れへの期待や金融市場の改善傾向が下支え材料となります。一方、景気や業績の先行きには不透明感が残ることや長期金利の上昇等が上値を抑制する可能性があり、徐々に騰勢は弱まりをみせてもみ合いに移行すると想定します。

[2010年3月末予想値 米S&P 700-1,050]

## 為替

<ドル/円>

米国財政赤字やイベントリスクなどのドル安圧力は残ります。一方、積極的な円買い材料も少ないため、ドル安圧力を受けながらレンジ内で推移すると予想します。

<ユーロ/円>

ECBの利下げ打ち止め観測や域内景況感の改善、そしてドル安圧力がユーロ優位に作用するものの、一方で域内景況感の格差等の問題が上値を抑制する可能性があります。そのため、レンジの中での推移を予想します。

[2010年3月末予想値 円/ドル 88-108円、円/ユーロ 110-140円]

Note

## Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



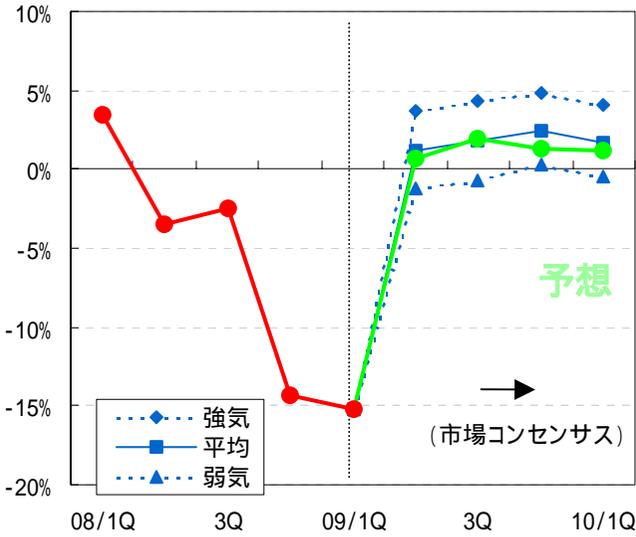
---

## ● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・中国のGDP成長率
  - ✓ 今月のトピックス
-

### 日本

日本:実質GDP成長率(前期比年率%)



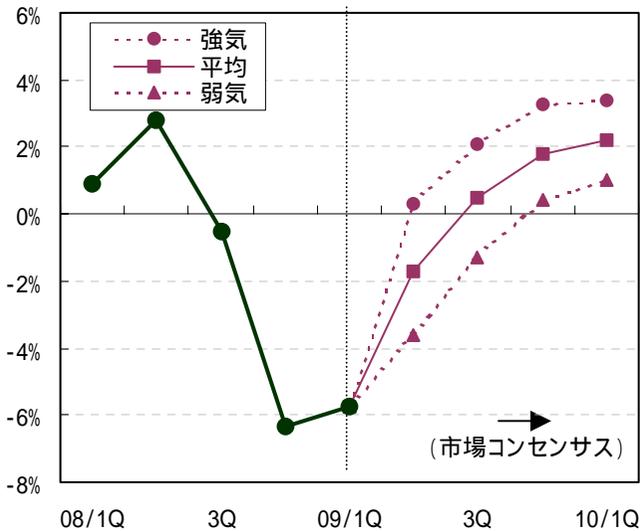
出所:内閣府(実績値のみ)、社団法人 経済企画協会

1-3月期の日本のGDPは前期比 4.0%となり4四半期連続のマイナス、減少率は前期を下回り戦後最低となりました。外需のマイナス寄与が大きかった前期(10-12月期)と比較して、当期は設備投資や個人消費などの内需のマイナス寄与が大きくなりました。

\* 予想は弊社作成

### 米国

米国:実質GDP成長率(前期比年率%)



出所:米国商務省、ブルーチップ

1-3月期の米国のGDP改定値は、前期比年率 5.7%と速報値( 6.1%)から上方修正されました。個人消費(+2.2% +1.5%)は下方修正されたものの、純輸出と在庫のマイナス寄与が縮小した影響です。

### Note

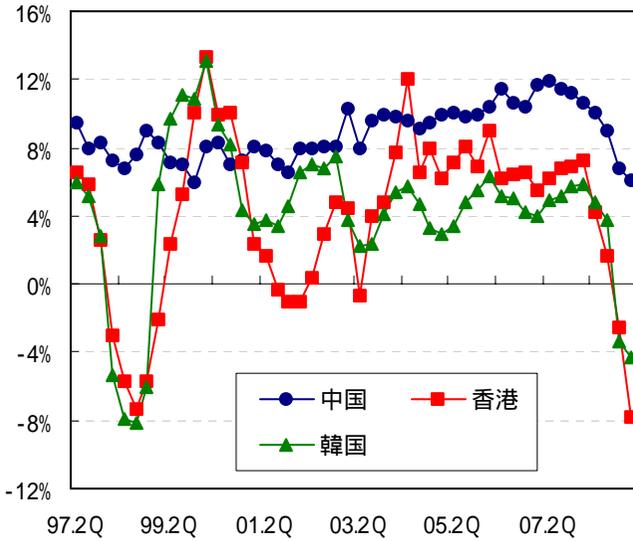
### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### アジア

アジア実質GDP成長率(前年比%)

出所: 中国国統計局・香港統計局・韓国銀行



1-3月期の香港のGDP速報値は前年同期比7.8%とアジア通貨危機の98年以降で最大のマイナス成長となりました。政府支出以外の項目すべてがマイナスとなりました。

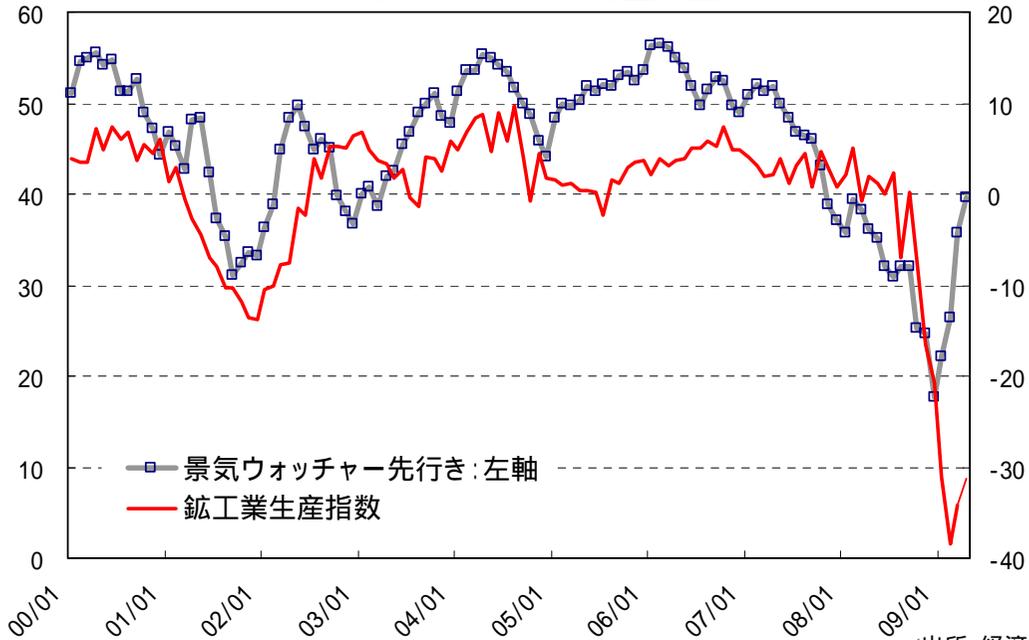
### Note

### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

### 日本; 生産底打ち観測強まる

#### 景気ウォッチャー調査と鉱工業生産



(出所: 経済産業省、内閣府)

4月の景気ウォッチャー調査は4ヶ月連続で改善し、企業の在庫調整が進んだほか、定額給付金等の政策効果により消費の持ち直しが見られました。しかし、景気が「よくなった」との回答は依然として少ない状況です。内閣府は、3ヶ月連続で基調判断を上方修正しました。

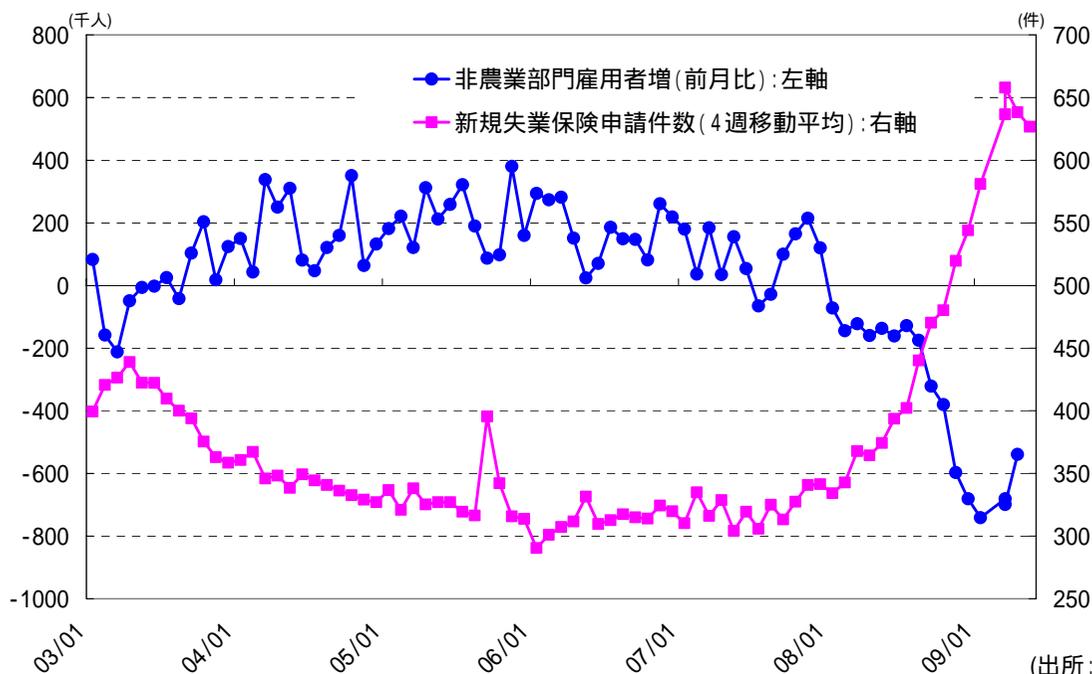
4月の鉱工業生産指数は前月比5.2%と2ヶ月連続で上昇しました。水準自体は低いため依然として力強さに欠けるものの、5、6月の予測指数が増産を見込んでいることから、ようやく底を打つものと想定します。

#### Note

#### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認ください。

### 米国; 雇用統計と新規失業保険申請件数との比較



(出所: 米国労働省)

4月の非農業部門雇用者数は前月比 53万9千人と減少幅が縮小し、1月の前月比 74万1千人をボトムに、雇用の減少ペースは鈍化しました。

週次で発表される失業保険新規申請件数はクライスラー工場の操業停止の影響を受けつつも、3月末をピークに減少しております。

今後も自動車関連を中心に雇用者数が減少する可能性が残りますが、雇用者の減少幅縮小により景気の先行きに対する期待が強まるものと考えます。

#### Note

#### Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。